

6-12 九州地方の地殻変動

Crustal Movements in the Kyushu District

国土地理院
Geographical Survey Institute

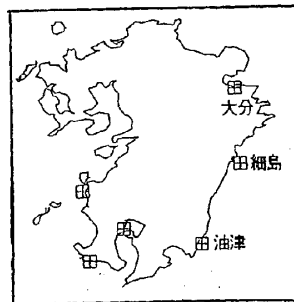
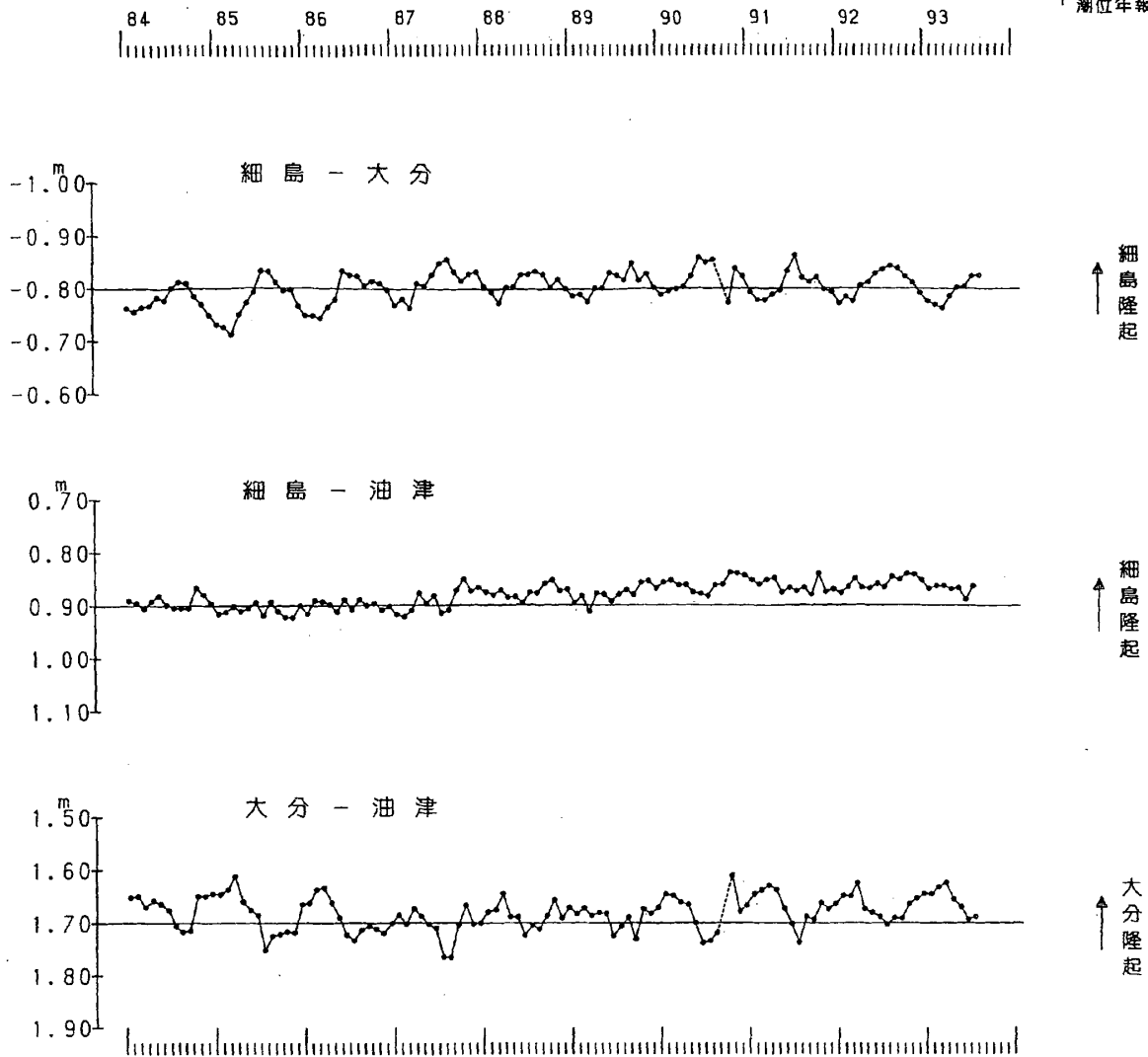
第1図は、細島・大分・油津各験潮場間の月平均潮位差である。1987年頃より、油津が細島に対して、隆起している。第2図は、鹿児島と阿久根・枕崎・油津験潮場間の月平均潮位差である。1978年頃から鹿児島は沈降を続けている。これは、桜島の火山活動によるものである。最近、沈降が鈍化しており、桜島の火山活動がやや不活発なことを反映しているのかもしれない。第3図は、島原半島周辺の験潮場間の月平均潮位差である。口之津が最近（1993年6～7月）隆起しているが、このような隆起はこれまでもときどき見られ、年周変化とも考えられる。多比良は、1990年末頃に隆起が見られたが、最近ほとんど変動がない。

第4～5図は、天草・熊本地方の水平歪である。島原半島普賢岳周辺を除いては、既報のものである。普賢岳が噴火に伴って西へ大きく移動したため、北東側が伸張、南西側が圧縮の歪になっている。

第6～7図は、雲仙地区のGPS連続観測結果である。1993年10月から全辺縮みの傾向にある（第6図）。7月から10月にかけて、仁田峠が隆起傾向にあったが、11月になって沈降に転じている。

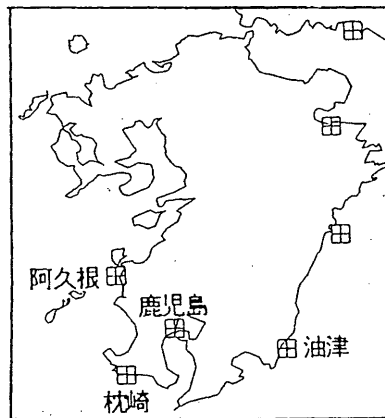
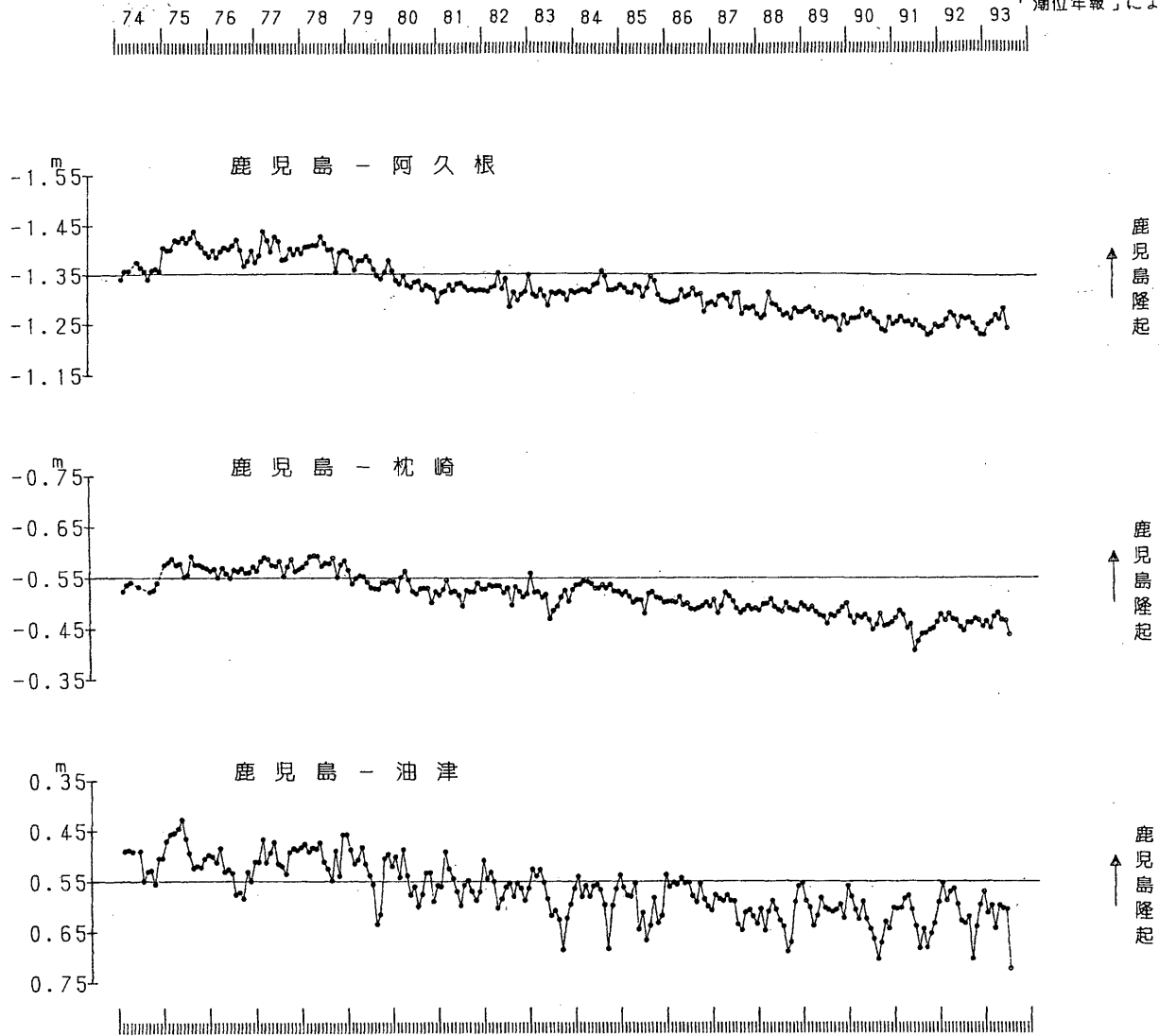
参 考 文 献

- 1) 国土地理院：九州・沖縄地方の地殻変動，連絡会報，**47**（1992），436-442.
- 2) 国土地理院：九州地方の地殻変動，連絡会報，**48**（1992），436-454.
- 3) 国土地理院：九州地方の地殻変動，連絡会報，**49**（1993），527-541.
- 4) 国土地理院：九州地方の地殻変動，連絡会報，**50**（1993），551-557.



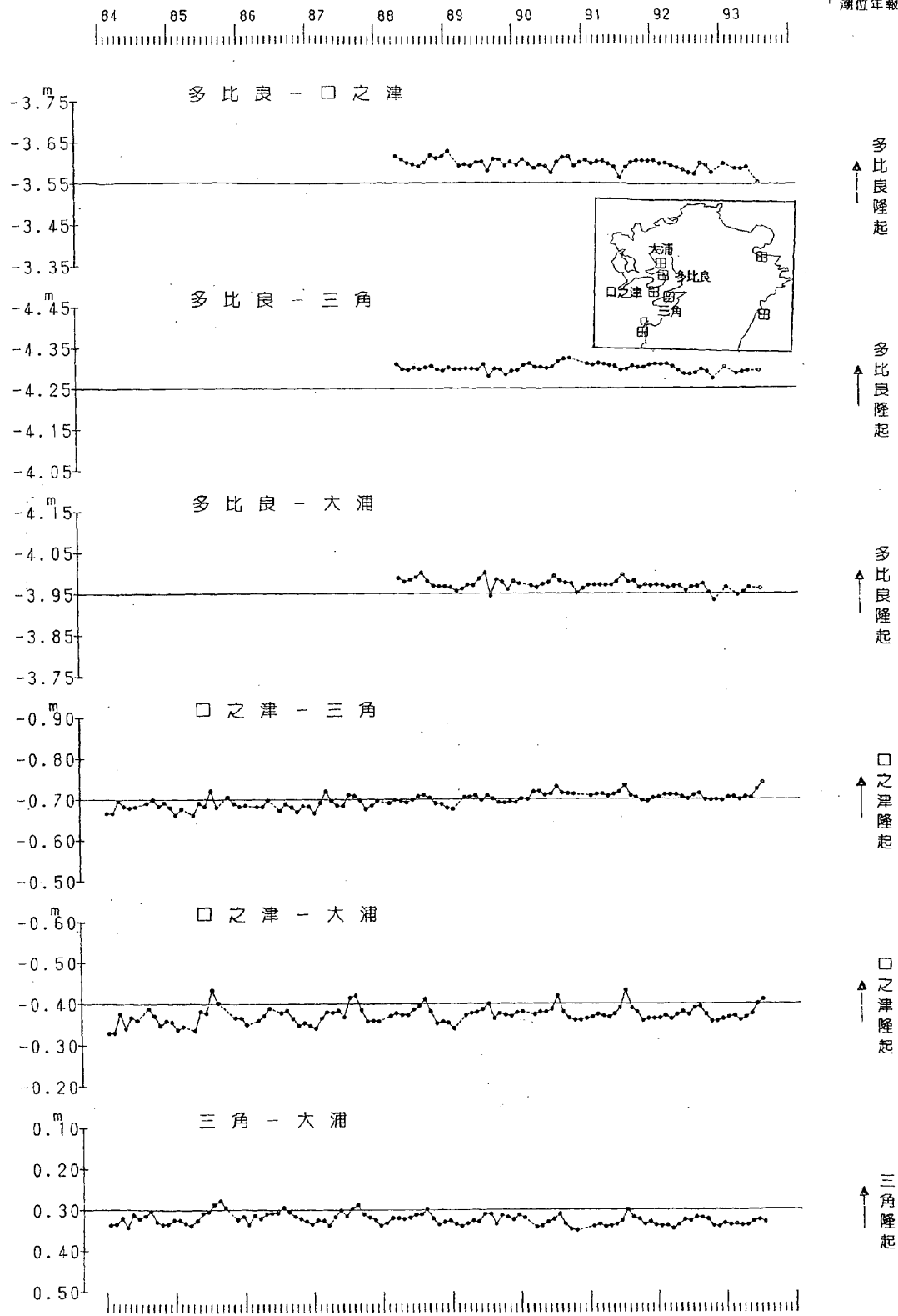
第1図 細島，大分，油津験潮場間の月平均潮位差

Fig.1 Differences in monthly mean sea levels between the Hosojima, Oita and Aburatsu tide stations.



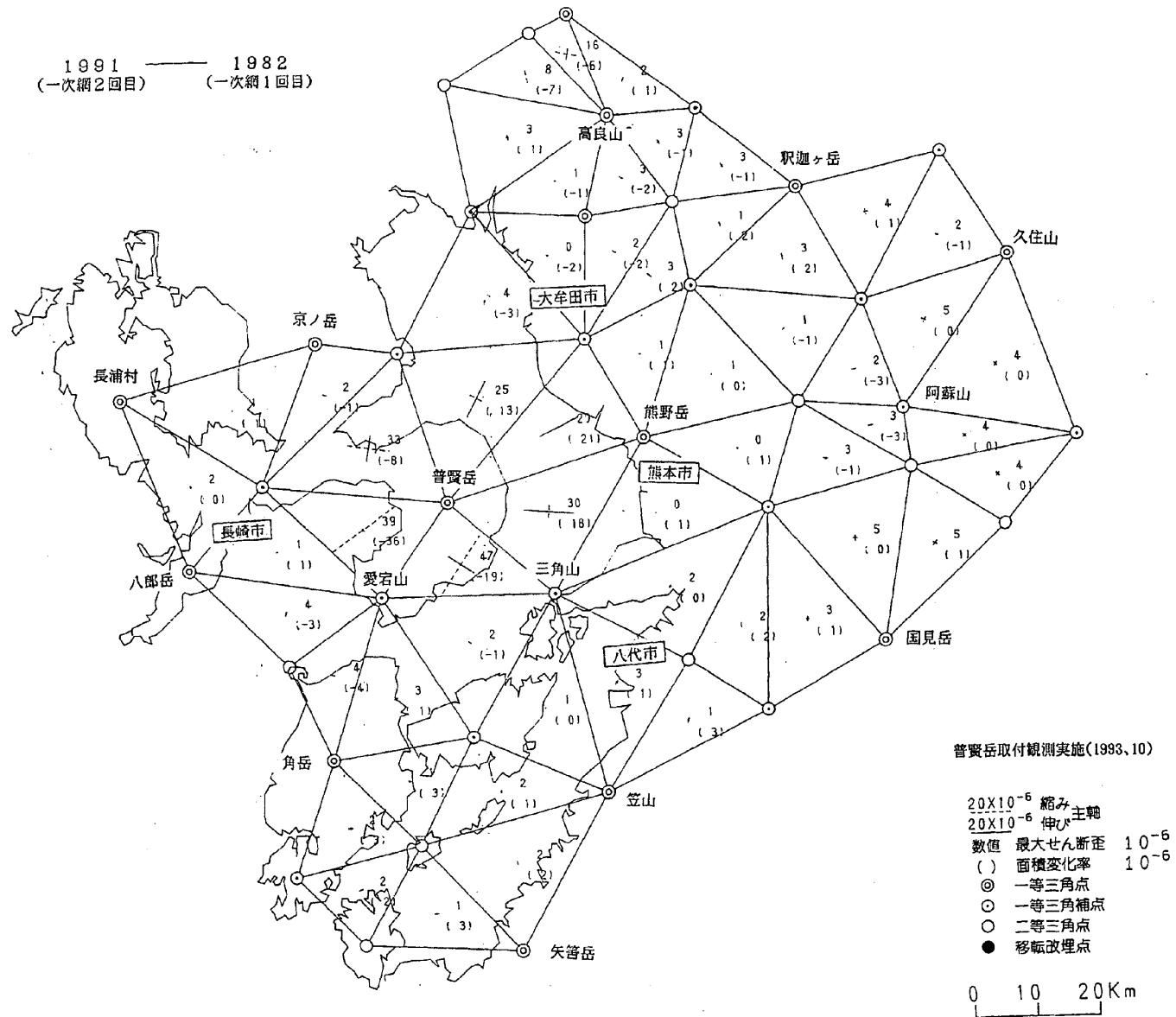
第2図 鹿児島と阿久根，枕崎，油津験潮場間の月平均潮位差

Fig.2 Differences in monthly mean sea levels between the Kagoshima, Akune, Makurazaki and Aburatsu tide stations.



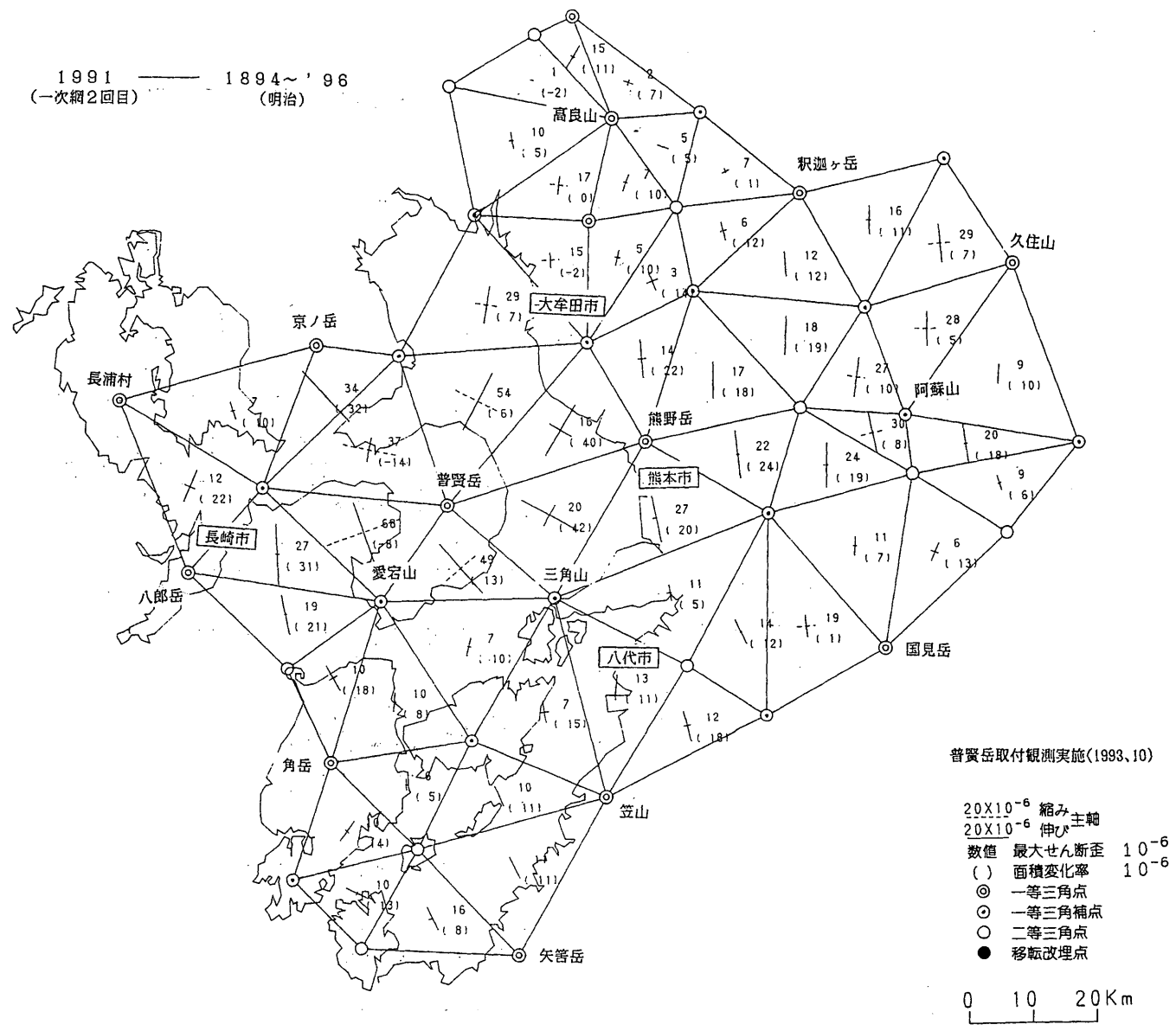
第3図 島原半島周辺の験潮場間の月平均潮位差

Fig.3 Differences in monthly mean sea levels between the pairs of tide stations in and around the Shimabara Peninsula.



第4図 天草・熊本地方の水平歪(1)：1991-1982

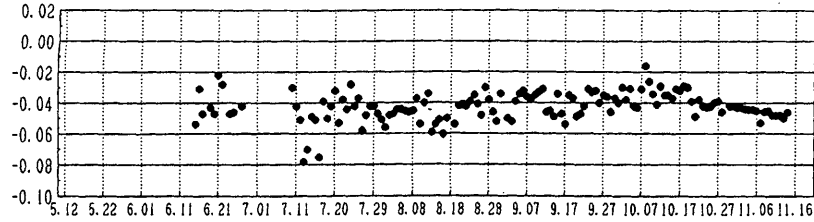
Fig.4 Horizontal strains in the Amakusa and Kumamoto districts (1):1991-1982.



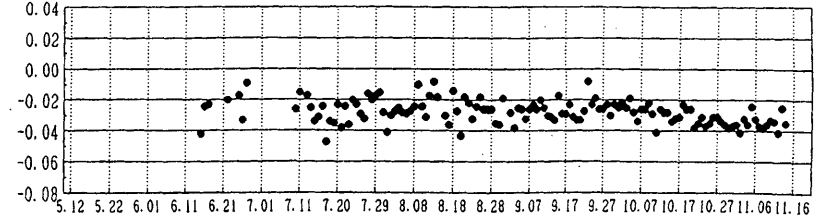
第5図 天草・熊本地方の水平歪(2) : 1991-1894~'96

Fig.5 Horizontal strains in the Amakusa and Kumamoto districts (2) : 1991-1894~'96.

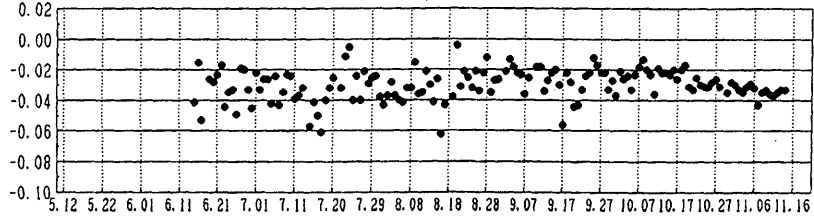
仁田岬-磯石(基準値 5240.200 : 1目盛2cm)



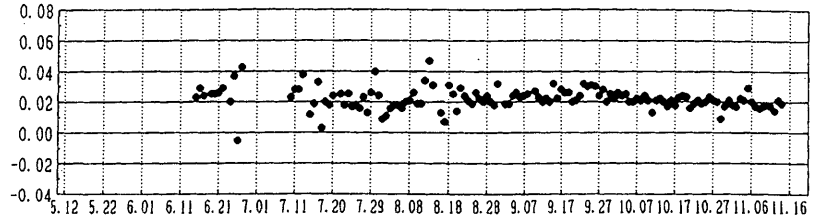
九大-磯石(基準値 5521.790 : 1目盛2cm)



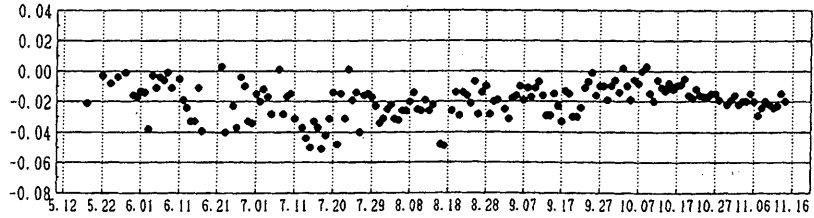
仁田岬-折橋(基準値 6519.000 : 1目盛2cm)



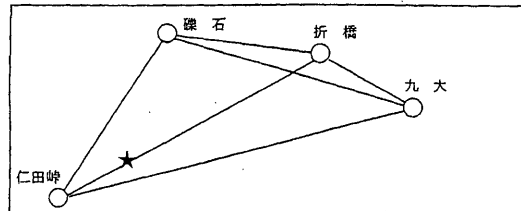
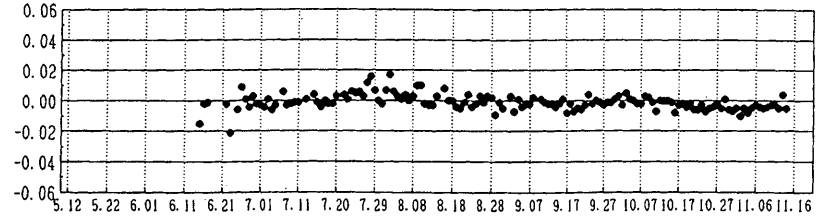
磯石-折橋(基準値 3011.400 : 1目盛2cm)



仁田岬-九大(基準値 7609.400 : 1目盛2cm)



九大-折橋(基準値 2629.100 : 1目盛2cm)



(最終観測 11月 14日 17時 - 20時)

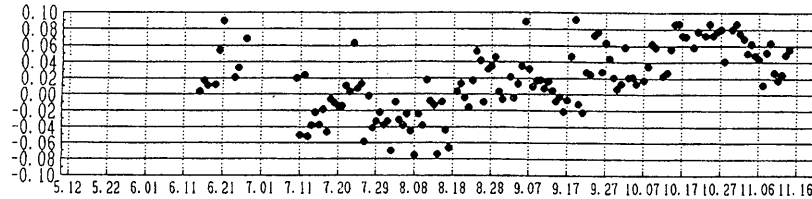
受信機の変更 : 5月14日より2波受信機にて観測

第6図 雲仙岳周辺におけるGPSによる地殻変動連続観測(1) : 辺長変化

Fig.6 Crustal movement monitoring by GPS around Unzendake (1): distance change.

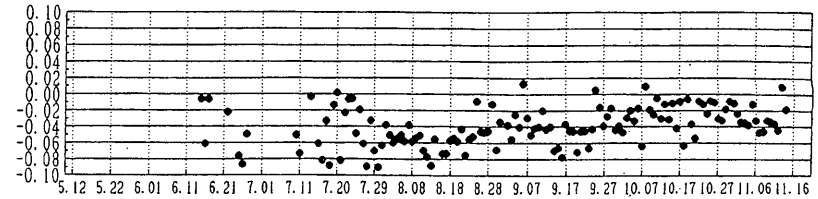
仁田峠-礫石(1目盛:2cm)

(基準値:標高差 763.50m) 「仁田峠 UP ↑」



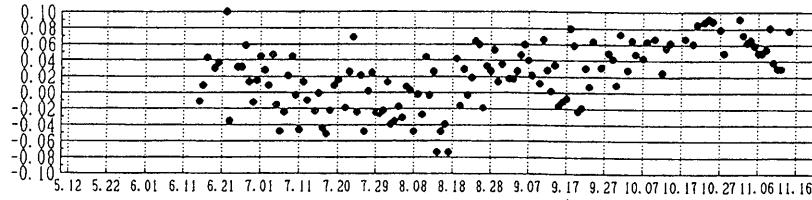
九大-礫石(1目盛:2cm)

(基準値:標高差 272.90m) 「礫石 UP ↑」



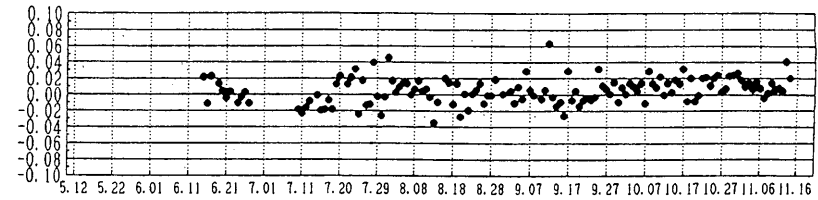
仁田峠-折橋(1目盛:2cm)

(基準値:標高差 941.70m) 「仁田峠 UP ↑」



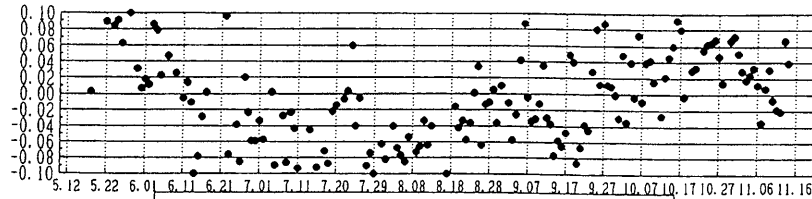
礫石-折橋(1目盛:2cm)

(基準値:標高差 178.20m) 「礫石 UP ↑」



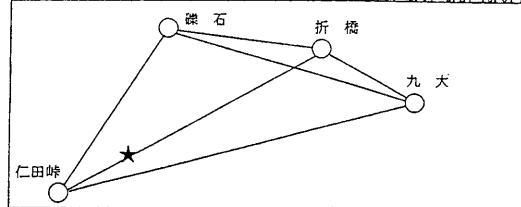
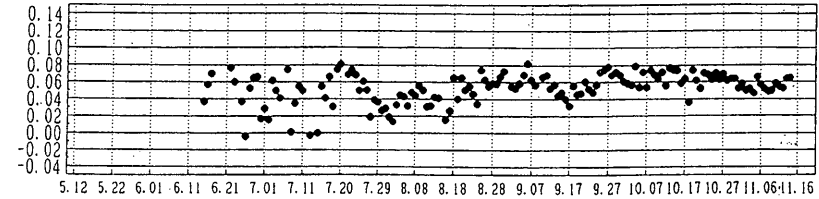
仁田峠-九大(1目盛:2cm)

(基準値:標高差 1036.40m) 「仁田峠 UP ↑」



九大-折橋(1目盛:2cm)

(基準値:標高差 94.60m) 「折橋 UP ↑」



(最終観測 11月14日 17時 - 20時)

受信機の変更: 5月14日より2波受信機にて観測

第7図 雲仙岳周辺におけるGPSによる地殻変動連続観測(2):比高変化

Fig.7 Crustal movement monitoring by GPS around Unzendake (2): height change.